

様式1

令和元年度 学校評価表

学校教育目標	夢チャレンジ ～かしこく やさしく たくましく～		尾道市立三成小学校
--------	--------------------------	--	-----------

a ミッション	小中連携を核とした組織的な研究による学力向上 ～NIE教育の充実・発信～	a ビジョン	活気と笑顔あふれる学校 ○児童の自己肯定感を高める学校 ○職員がやりがいをもって働ける学校 ○保護者が子供を安心して通わせる学校
---------	---	--------	---

b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	自己評価				学校関係者評価			改善計画							
					7月 g 達成値	1月 h 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明										
					イ	ロ	ハ	l コメント											
主体的に学び、 自分の成長が実感できる児童の 育成	授業改善により学力を高めることを通じて、児童の学ぶ意欲を高める。	読型の活用により、相手を意識し、分かりやすく考えを伝えることのできる児童の育成	【教師・児童双方の自己評価】 学びの変革アンケート項目8（発表の工夫） ：教師アンケート・教師アンケート共に、肯定的評価80%	80%	63.3	70.6	88.3%	B	前期と比べ、教師の指導に対する意識はかなり向上している。指導しているものの、児童自身が他の意見と自分の意見が似ているのか迷うのか、質問なのか意見なのかといった区別ができていない家庭があるので、引き続き指導が必要である。また、児童にどんな話し方ができるようになったのの自覚させることも必要である。	3	0	0	○先生方が意識して取り組むことで成果が表れている。 ○数値に現れない場合もあるので、継続指導をしてほしい。	・児童が自分の考えを論理的に伝える力を身に付けさせるために、話し型を使った指導を継続指導する。 ・友達の意見が、自分と似ているのか迷うのか、質問なのか意見なのか等、正確に聞く力をつけるために、話すことと聞くことをセットで指導し、友達の意見に対して自分のコメントが常に見えるよう、聞き方の指導を行う。					
		基礎力の向上	【学力】 国語科・算数科の単元末テストの平均通過率85%	85%	81.7	84.7	99.6%	B							○学習の基礎基本が将来につながるので、低学年から丁寧な指導が大切である。 ○家庭との連携を深めながら、家庭の教育力を高めるよう働きかけが必要である。	3	0	0	・児童の主体的な学びを生み出すような授業改善を進め、学習楽しさを味わわせる。 ・ドリルタイムや家庭学習から児童の理解度を確認に見取り、個別の指導を充実させる。 ・家庭学習のあり方に課題があるため、家庭との連携を学校全体で密にする取組や、個別の指導をする時間を確保する。 ・ドリルタイムでは、全国学力学習状況調査の課題を克服するための補充問題を重点的に実施し、当該学年で付けたるべき力が児童一人一人に確実に身に付くよう、組織的な学力向上対策に取り組む。
	「三つの宝（あいさつ・掃除・時間）」の醸成	【教師・児童双方の自己評価】 （7・12・3月） 「三つの宝」（挨拶・時間・掃除）アンケート ：教師アンケート・児童アンケート共に、肯定的評価80%	80%	86.9	82.9	103.6%	A	「三つの宝」（挨拶・時間・掃除）アンケートでは、肯定的評価82.9%と目標を達成することができた。掃除においては、児童会と連携して生活目標と掃除を取り入れた。すみずみまで掃除をすることが低学年を中心に意識することができるようになってきた。しかし、掃除道具の使い方も、掃除の仕方や報告書も全体で示したり、掃除場所の区切りをはっきりさせていくことが必要である。引き続き課題として、「挨拶」がある。自分から挨拶をするなど難しい実態がある。児童会の取組をしているときには、改善される取組が終わると元に戻る。各学級や集会で指導しているが、定着しきかないのが現状である。							3	0	0	○いつも気持ちの良い挨拶をしてくれる児童がいる。挨拶は、人間関係を作る基盤となるので自信をもって挨拶ができる子を育ててほしい。 ○履物が揃っていることから、学校が落ち着いているとわかる。 ○「三つの宝」が定着していると感じられる。家庭で教えてもらっていない子もいるので、学校で大切なことを教えてほしい。	・自分から気持ちの良い挨拶が出来る児童を育てるよう、児童会のあいさつ運動を活用し継続指導を行う。 ・掃除の仕方や掃除道具の片付けに課題があるので、集会で全体に周知したり、掃除リーダーを中心に見直し自分たちでできるように指導し続ける。 ・三成小「三つの宝」として、大切な文化を守る意識を作るよう児童会を中心に取組を行う。
	自己肯定感の向上	【自己肯定感】 （7月） アセスメント項目（自己肯定感） 肯定的評価の割合80%	80%	78	78	97.5%	B	通商を使って、定期的に学年や学級の様子に加えて、肯定的評価を記載することは、ほぼ全てのクラスで行うことができた。11月に実施したアセスメントにおいて、「まあまあ自分に満足している」という項目に対する肯定的な返答をしている児童の割合は、78%であった。前年度に比べて、5・6年生の割合が50%を下回っており、学年が上がるにしたがって、自己肯定感が下がる傾向がある。教職員全員で、児童の笑顔と共有するはもちろん、教職員全員で、いじめも悪いことも同じように指導できるようにしていかなければならない。また、自分のよいところを表現したり、友達の良いところを認め合う活動を取り入れたいことが大切である。							3	0	0	○児童の良いところを褒めることはとてもよい。一人一人が大切な存在であることを理解させ、自分を大切にすることを育ててほしい。 ○児童の個性や特性を重視し、画一的な指導にならないように取り組んでいく必要がある。	・教職員間で児童の実態を共有し、良いことも悪いことも同じように指導できるように指導の統一を図る。 ・自分のよいところを表現したり、友達の良いところを見つけたら活動を全校で取り組む。 ・児童の個性や特性を重視し、画一的な指導にならないように取り組む。
生活習慣の改善を通して、児童の 気力・体力を高める。	体力の向上を図るために、遊びを通して体力づくりの習慣化を図る。	握力の数値が向上した児童の割合90パーセント	90%	65.7	78.9	87.7%	B	本校の課題である握力の数値の向上においては、昨年度から取り組んできたハンドグリップチャレンジに加え、学期より始めたタオルチャレンジの二つの取り組みを継続して行った。目標達成率の向上が達成することができなかった。その要因として考えられるのは、ハンドグリップチャレンジは、休憩時間に児童が自主的にやるだけでなく、学年毎に参加者が非常に低い、続ける方向性に向けた事案など、体感時間がなかなか確保できない現状があった。2学期からタオルチャレンジを全校で取り組んだが、児童会が積極的に取り組んでいるが、まだ把握できていない課題がある。来年度も引き続き握力向上の取り組みを通して、児童の体力向上を図ってきたい。	3	0	0	○児童の遊びが時代とともに変わり、握力を鍛えることが日々の生活では難しい。ハンドグリップチャレンジやタオルチャレンジなど遊びながら鍛える取組は良いことである。 ○ジャンプ休憩等は、集団で外遊びをすることができ、体力向上につながるだけでなく協調性を育てることもでき大変良い。	・握力を高める「遊び」の経験が不足している現代にあっては、握力向上を長期的な課題として、次年度も引き続き重点として取り組んでいく。 ・ジャンプ休憩等、外遊びを奨励する活動を全校で取り組む。						
		学校として統一感・一体感のある組織を作る。	保護者との連携を迅速かつ丁寧にし、職員個々で差のないようにする。	保護者アンケートで「学校の対応に満足している」割合90%	90%	87.1	82.3	91.4%	B	情報発信では、学校・学年の連携の発行やHPの更新などの取組は95%以上で、よくできていた。しかし、保護者アンケートで「学校の対応に満足している」割合が82.3%と低かった。原因は、2点考えられる。1点目は、今年度、学習指導要領の最終移行期間であることから行事等の見直しを行い、今年度から変わったことが多かったことである。丁寧な説明を心がけてきたが、変更することに理解していただくことが難しい保護者がいた。2点目は、職員の不祥事や不適切な発言が原因として考えられる。毎日の職員研修研修を行ってきたが、自分事としてとらえられていなかったことを反省しなければならない。来年度は、研修の内容や説明経路の徹底など見直ししていきたい。	3	0	0	○運動会や学習発表会など昨年度と変わったことが多くあったが、丁寧な説明があり大変良かった。多くの人は理解が得られていると思う。 ○「働き方改革」が世の中で浸透してきたが、先生方に負担がないうようにしてほしい。時にストレスチェックも必要である。	・積極的な情報発信に努め、児童の頑張っている姿や校内の取組をタイムリーに伝えることができるように取り組む。 ・信頼される学校を創造するために、変更点について丁寧な説明を行う。 ・職員の不祥事防止に努めるため研修の見直しや勤務規律の徹底を図るとともに、ストレスチェック等で職員の心身の健康を図る。				

【自己評価 評価】
A：100≦（ほぼ達成）<100
B：80≦（ほぼ達成）<100
C：60≦（もう少し）<80
D：<60（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。